

日本労働年鑑 第53集 1983年版
The Labour Year Book of Japan 1983

第二部 労働運動

X 国際労働組合運動と日本

2 国際労働組合の諸会議

3 その他の国際労働組合会議

労組指導者会議

八一年七月二〇日～二一日にカナダのオタワで開催されるオタワ・サミット(先進国首脳会議)に労働組合側の提言を反映させるために、オタワ労組指導者会議が一三、一四の両日開かれた。これは、最初のロンドン労組指導者会議以来四回目。会議には、カナダ労働組合会議、(CLC)カナダ全国労働組合、イギリス労働組合会議(TUC)、フランス民主労働総同盟(CFDT)、フランス労働総同盟・労働者の力(CGT・FO)、ドイツ労働総同盟(DGB)、アメリカ労働総同盟産別会議(AFL・CIO)、イタリア労働総同盟(CGIL)、イタリア労働組合連盟(CISL)、イタリア労働同盟、(UIL)が参加し、日本からは富塚総評事務局長、宇佐美同盟会長、豎山中立労連議長らが出席した。また国際組織からは、ICFTU、WCL、ETUC、英連邦労組評議会(CTUC)、OECD労組諮問委員会(OECD・TUAC)の各代表が出席した。

会議では、TUAC総会で採択された「労働組合声明」について、各国での政府への申入れと政府回答が報告された。これに基づいてトルドー・カナダ首相への申入れ内容が検討された結果、(1)失業、(2)高金利、(3)エネルギー、(4)南北問題、(5)時間短縮の五点にしぼることに決定。七月一四日、先進七カ国労組代表はトルドー首相と会見し、五項目の労組側提言を申し入れた。

国際労連世界大会

八一年一月九日～一四日、フィリピンのマニラで、国際労連(WCL)第二〇回大会が開催され、日本から総評の大平国際部長が出席した。大会は「労働組合運動と連帯」等の議題について討論し、ジョニ・ダン議長を選出して閉会した。

パレスチナ、南ア・ナミビア連帯国際労組会議

八三年三月二四日～二七日、リビアの首都トリポリで、パレスチナ、南アフリカ、ナミビアの労働者・人民との連帯国際労働組合会議が開催され、日本から総評の田中ヨーロッパ事務所員が出席した。会議の主催者は、OATUU、国際アラブ労連(ICATU)、リビア・アラブ・ジャマヒリア生産者連盟である。

【参考資料】(1)世界労連東京事務所『世界労働組合運動』、(2)WFTU, Flashes From Trade Union. (3)WFTU, Asian Workers (4)ICFTU日本加盟組織連絡協議会『自由労連通信』、(5)ICFTU, International Trade Union News (6)ICFTU, Free Labour World (7)総評『第六六回定期大会報告』、(8)同盟『第一八回定期大会報告』、(9)同盟『第五〇回中央評議会報告書』、(10)日本労働協会

編『昭和五七年版労働運動白書』、(11)『週刊労働ニュース』、(12)『総評新聞』、(13)『同盟新聞』、(14)『自治労第四一回臨時大会一般経過報告』、(15)全電通『第八四回中央委員会一般経過報告』、(16)PTTI『第二四回世界大会決議・決定集』、(17)『じかたび』、(18)『うんゆ一般』、(19)『日林労新聞』、(20)『IUFニュース』、(21)日教組『第五七回定期大会、経過報告』

日本労働年鑑 第53集 1983年版

発行 1982年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月4日公開開始

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1983年版(第53集)【目次】 次のページ → ■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
